

群馬県立太田フレックス高等学校【定時制課程】学校評価一覧表① (平成30年度版) (様式1)

注 評価について A：十分に達成できた B：達成できた C：もう少しで目標が達成できた D：達成できなかった

羅 針 盤			方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動(授業等)を行っていますか。	① 完全な単位制の履修形態に満足している生徒・保護者が90%以上である。	履修登録後も個々の生徒の適性や進路目標に合わせた個別指導を適宜行う。	A	A	生徒の96%、保護者の94%が肯定の回答をしている。履修に不満を覚える理由を解明し、対応する。			
		② 学年、学級がない中で、生徒の出席率を80%以上にしている。	出席率データによる状況把握を基に、教員間で情報共有し支援する。	B		4月から8月までの出席率は、Ⅰ部84%、Ⅱ部81%、Ⅲ部87%である。ゼミ担任と教務部で出席状況を的確に把握した上で、ゼミ活動や保護者との連携を通じて、継続的な指導を図る。出席意欲をかき立てる授業やゼミ活動をさらに展開する。			
		③ ゼミ(総合的な学習)の活動に満足している生徒が80%以上である。	ゼミを通して、生徒自身が自己と向き合い主体的に学習する態度を育成する。	B	A	生徒の96%(昨年より6%増)、保護者の96%が肯定の回答をしている。教員の工夫に加え、生徒がフレックス発表会の計画・立案・実践を通じて、より主体的な活動となるようにする。			
		④ 学校設定科目の内容に満足している生徒・保護者が80%以上である。	生徒の現状に応じて、必要な学力が身に付くように、指導内容や授業展開を工夫する。	A	A	生徒の90%、保護者の91%が肯定の回答をしている。さらに授業内容を充実させ、生徒の現状に応じた授業展開をする。各学校設定科目の設定意義を適宜確認する。			
		⑤ 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	本校の特性を生かした教育活動と個に応じた支援・指導を展開する。	B	B	生徒の83%が好きだと回答し、保護者の96%が入学させて良かったと回答している。個々の生徒の状況に応じたきめ細やかな指導を通じて、さらに自己肯定感や自己有用感の高揚を図る。			
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑥ 少数制の利点を生かした授業内容に満足している生徒・保護者が90%以上である。	個々の生徒を観察・理解し、生徒の実態にあわせた授業づくりに全教職員が取り組む。特に、7月と12月に授業アンケートを実施して、授業改善に生かす。	A	A	生徒の93%、保護者の97%が肯定の回答をしている。授業アンケートで生徒から指摘された内容については、該当科目だけでなく、すべての科目にも当てはめて検証し、授業改善に生かす。個に応じた指導をさらに進める。			
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 学力が向上したと感じている生徒が80%以上である。	基礎基本の定着と主体的で対話的な学びを通して思考力・判断力・表現力を養う授業に全教職員が取り組む。	B	B	生徒の83%、保護者の75%が肯定の回答をしている。深い学びに繋がる授業展開について、教科担任が情報交換・意見交換を適宜行うとともに定期考査のさらなる質の向上も図る。			
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ SNSに関わるトラブルに巻き込まれることなく、健全な学校生活を送っている生徒が100%である。	SNSに頼らない人間関係づくりによる予防や日々の生徒の観察をより徹底し、適宜指導する。	C	C	生徒の89%、保護者の77%が肯定の回答をしている。SNSに関する情報提供を適宜行うとともに、教職員が問題を抱える生徒を早期発見し、早期対応できるようにする。			
		⑨ いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	定期的なアンケートにより状況を把握し、また集会等により、いじめ防止の啓蒙やいじめ発生の際は迅速な解消を図る。	B	B	8月までにいじめと捉えられる事案は数件見られたが、解消または解消に向けて迅速な対応が図られている。随時いじめ防止の呼び掛けをする。教職員は生徒のいじめのサインを見逃さないように、常に生徒観察と情報収集を行う。			
		⑩ 挨拶の励行や学校生活の中でのマナーや礼儀をできている生徒が80%以上である。	挨拶の習慣を身に付けさせ、TPOをわきまえた身だしなみを全教職員が積極的に指導する。	A	A	生徒の93%、保護者の87%が肯定の回答をしている。授業・ゼミや集会を通じて継続的な指導を行う。マナー等の問題は、その場ですぐに指導をする。教職員もその範となるようにする。			
		⑪ 交通マナー・交通ルールを遵守している生徒が100%である。	各ゼミごとの標語作成、「ヒヤリ・ハット」アンケートや『交通委員会だより』を通じて定期的な自己啓発を図る。	C	C	生徒の94%、保護者の94%が肯定の回答をしている。本項目の最終的な目標は100%である。定期的な『交通委員会便り』の発行に加え、必要な時に必要な注意喚起・啓発に取り組む。			
		⑫ 教育相談が充実していると感じている生徒が80%以上である。	管理職、教育相談係、スクールカウンセラー等と連携し、個々の生徒へ複数の教職員で支援を行う。	B	B	生徒の88%、保護者の89%が肯定の回答をしている。保護者も含めスクールカウンセラーに相談しやすい環境作りを行う。教職員の教育相談技術の向上を適宜図る。			
		⑬ 学校行事チャレンジウォークに生徒の70%以上が参加し、90%以上が完歩している。	行事の意義理解と健康管理という生徒への事前指導を充実させるとともに、当日は生徒の的確な観察と支援を行う。			10月19日に実施予定のため、今回は評価は行わない。昨年度の反省を踏まえ、安全確保や参加態度等も含め事前指導をきめ細く行う。保護者にも行事の意義を理解してもらう。			
		⑭ 学校行事フレックス発表会に満足している生徒が80%以上である。	日々のゼミ活動や部活動に力を入れ、充実した発表ができるようにする。			12月14・15日に実施予定のため、今回は評価は行わない。昨年度に引き続き、ゼミ発表の場としての位置づけをより明確にし、10月中旬には実施要項を完成させるとともに、各ゼミで計画的かつ積極的な準備を行う。生徒の主体性を伸ばす工夫を図る。			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 計画的な指導をしていますか。	⑮ 健康について自己管理ができている生徒が70%以上である。	『保健だより』による予防や生活リズム等の広報活動を促進し、自主的に健康づくりができるようにする。	B	B	生徒の81%、保護者の64%が肯定の回答をしている。定期的な『保健だより』の発行による呼び掛けに加え、生徒の健康状態や健康管理意識に応じて、個別に適切な助言や指導を行う。			
		⑯ 進路指導が自分の進路検討や進路決定に役立つと感じている生徒が75%以上である。	進路関係諸行事のさらなる充実と『進路だより』の発行に加え、こまめに個別アドバイスを行う。	A	A	生徒の89%が肯定の回答をしている。定期的な指導に加え、生徒の状況及び就職・入試状況の変化を的確に捉え、適宜進路決定に通じる支援・指導を行う。			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	7 家庭に積極的に情報発信して、連携が取れていますか。	⑰ 進路目標を持ち、その実現に向けて努力している生徒が75%以上である。	早期に卒業後の進路を意識し、モチベーションを維持できるように指導する。	B	B	生徒の86%、保護者の66%が肯定の回答をしている。適性と能力に合った企業・上級学校に進めるように、基礎学力の定着を図るとともに年次ごとの系統的な進路指導をさらに実践する。			
		⑱ 生徒の育成について、学校と保護者の連携がとれていると感じている保護者が80%以上である。	ゼミ担任から保護者への連絡を密に行い、行事等における保護者との連携の機会を増進させる。	B	B	保護者の87%が肯定の回答をしている。PTA役員を中心とした活動は充実している。それがより多くの保護者に広まるよう工夫する。また、保護者への各種情報提供の機会も増やす。			